
アジア証券人フォーラム（ASF）第14回年次会合について

平成21年10月11日～13日

第14回アジア証券人フォーラム（Asia Securities Forum：ASF）^{（注）}が、豪州金融市場協会の主催により、去る10月11日から13日にシドニーにおいて開催された。

本フォーラムは、日本証券業協会の提唱により、アジア・オセアニア地域の指導的業界人が一堂に会し、同地域における証券界の交流と証券市場の発展に寄与することを目的に、1995年に発足したものである。

以下に今回のフォーラムの報告として、「第14回アジア証券人フォーラムの概要」を掲載する。

第14回アジア証券人フォーラムの概要

1. 開催日時

自 平成21年10月11日（日）

至 平成21年10月13日（火）

2. 開催場所

オーストラリア シドニー

3. 主催者

豪州金融市場協会

4. 参加国（地域）

オーストラリア、中国、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、台湾、タイ、トルコの13カ国（地域）からの約40名。

参加団体は別紙のとおり。

5. 内容

次の議題について、各国・地域の代表者による報告及び参加者による意見交換が行われた。

（1）主催者及び主催国からの挨拶、講演

主催者である豪州金融市場協会（AFMA）のステイブ・ハーカー次期会長、バリー・バフィア－新サウス・ウェールズ州投資貿易局次長による開会挨拶のほか、

（注）アジア証券人フォーラム（Asia Securities Forum, ASF）

・本フォーラムは、日本証券業協会の提唱により、アジア・オセアニア地域の証券市場・業界の代表者が一堂に会し、意見・情報交換と交流の促進を図ることを目的に、1995年に発足した。メンバーの持ち回りで年次総会を開催しているほか、年1回研修セミナーを東京で開催している。

以下のゲスト・スピーカーから講演が行われた。

ロ-ウィ-国際政策研究所研究員（豪国立大助教授）ステファン・グレンビル氏
オーストラリア金融投資委員会（ASIC）委員長 トニー・ダロウジオ氏
オーストラリア貿易委員会チーフ・エコノミスト ティム・ハーコート氏
オックスフォード・ファイナンス・グループ理事 ルーベン・リー氏
金融サービス・年金・会社法担当大臣 クリス・ポーウェン氏
オーストラリア証券取引所専務理事CEO ロブ・エルストーン氏

（２）カントリーレポート（司会：アラン・キャメロン元ASIC委員長）

各国・地域の経済・金融情勢及び証券市場・証券界の状況が報告された。特筆すべき点は以下の２点。

金融危機はアジア太平洋諸国の経済・金融市場にも影響を及ぼしたが、そのインパクトは比較的軽微で、目立った regulatory failure も見受けられず、経済・市場とも強い回復力を示している。この背景として、90年代の日本、90年代末のアジアを見舞った金融危機を克服する過程で各国の金融市場規制、金融機関のリスク・マネジメント、流動性管理が強化・改善されていたこと、アジア諸国の外貨流動性も通貨スワップ協定のネットワークが確立し不安定要因とはならなかったことが指摘された。一方、中国市場等については、完全に对外开放していないことが危機の伝播を妨げる要因となったとの指摘もあった。

一方、市場の自由化・对外开放の促進（中国、インド等）、金融イノベーション（効率性）と投資者保護の間でバランスの取れた規制・国際基準に整合的な規制の導入、デリバティブ市場の規制整備、イスラム金融の取引環境整備（マレーシア、香港）、各国市場の海外でのプロモーション活動（日本、韓国）等、各国とも、市場の公正性向上と活性化を図りながら金融センターとしての地位向上を目指す、将来を指向した方策を進めていることが紹介された。本協会からは、本協会の取組みを含む日本における制度改革などについて説明するとともに、日本の貿易に占めるアジア諸国のシェアは55%強であるのに対し、日本からの投資に占めるシェアは25%未満にとどまっていることを示し、資本市場における相互関係をさらに拡充する余地があること（オーストラリア、ニュージーランドを除く）、ASFメンバーとの共同プロジェクト（ASFセミナー、日本証券サミット、韓国資本市場説明会等）に注力していることを紹介した。

（３）パネルディスカッション

金融市場規制の課題

このパネルでは、金融危機に対応してG20やFSBを中心に進められている金融市場の規制改革の動きとアジア諸国の対応について議論が行われた。自己資本、流動性、デリバティブ取引、格付け機関等について、IOSCOやバーゼル委が定め

る基準に準拠して国際的に整合的な規制を導入する必要性が再確認されるとともに、開かれた透明性のある市場を維持するため、保護主義の台頭を警戒すべきことが指摘された。

インフラ・ファイナンスとアジア資本市場のオポチュニティ

このパネルでは、アジアの資本市場における新たなビジネスとして、依然大きな需要のあるアジアにおけるインフラ・ファイナンスについて、各事業のリスク・収益性を適切に評価・開示して、投資商品として構成するスキームが紹介された。

6. 今後の総会

次回年次会合（2010年）は中国 北京で開催される予定である。（その後、2011年は台湾、2012年はインド、2013年は日本で開催の予定。）

以 上

(別紙)

第 14 回 ASF 年次会合参加団体

オーストラリア	豪州金融市場協会 (AFMA)
中国	中国証券業協会 (SAC)
香港	香港証券業協会 (HKSA)
インド	インド証券取引所参加者協会 (ANMI)
インドネシア	インドネシア証券業協会 (APEI)
日本	日本証券業協会 (JSDA)
韓国	韓国証券業協会 (KSDA)
マレーシア	マレーシア証券業協会 (ASCM)
ニュージーランド	ニュージーランド金融市場協会 (NZFMA)
フィリピン	フィリピン証券業協会 (PASBDI)
台湾	台湾証券商業同業公会 (TSA)
タイ	タイ証券業協会 (ASC)
トルコ	トルコ資本市場仲介業協会 (TSPAKB)